

小学校

平成25年度

教育研究員研究報告書

国語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	2
V	研究の内容	3
1	研究構想図	
2	教員の意識調査	
3	研究の実際	
	低学年分科会の実践	6
	第2学年 9月実施	
	「1年生といっしょにあそぶために、あそび方しょうかいカードを作ろう」	
	教材名「おにごっこ」 森下 はるみ	
	授業者 清家 未寿貴 主任教諭（青梅市立藤橋小学校）	
	中学年分科会の実践	12
	第3学年 11月実施	
	「中心となる語や文をとらえて『めくってへんしんカード』を作り、友達にしようかいしよう」	
	教材名「すがたをかえる大豆」 国分 牧衛	
	「食べ物のひみつを教えます」	
	授業者 渡部 武義 主任教諭（調布市立第二小学校）	
	高学年分科会の実践	18
	第6学年 10月実施	
	『一推し！アートギャラリー』わたしが選んだこの絵を解説します！」	
	教材名「『鳥獣戯画』を読む」 高畑 勲	
	「この絵、わたしはこう見る」	
	授業者 三宅 梨加 主任教諭（練馬区立南田中小学校）	
VI	研究の成果と課題	24

目的に応じた的確に読む力を育てる指導法の工夫
～ 説明的な文章を読むことを通して～

I 研究主題設定の理由

東京都教育委員会では平成22年度から「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の中で「読み解く力に関する調査」を実施してきた。平成24年度と同調査の結果によると、説明的な文章を読む問題において「①必要な情報を正確に取り出す力」の設問の正答率は73.4%、「②比較・関連付けて読み取る力」が61.9%、「③意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」が19.1%となっており「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の定着が著しく低いことが分かる。

また、文部科学省実施の「平成24年度 全国学力・学習状況調査」では、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる国語Aの「読むこと」の正答率が82.3%であるが、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる国語Bの「読むこと」の正答率は56.0%となっており、国語Aに比べ正答率が低くなっている。特に、目的をもって雑誌を読み、複数の記事を結び付けたり、編集者の意図を推論したりしながら、自分の考えをまとめることに課題が見られる。

これらの調査の結果からは、目的に応じて文章を読み、意図や理由を推論したり、複数の情報を結び付けながら必要な情報をまとめたりすることに課題があることが分かる。

また、本研究では、研究員が所属する学校の教員に対し、「説明的な文章の指導」に関する調査を行った。調査の結果からは、児童が目的意識をもって授業に取り組むための言語活動の充実や指導法の工夫が必要であること、複数の文章を読み比べ、目的に応じてまとめる中で、身に付けた力を活用したり、自分の考えをもたせたりするような指導が十分なされていないことが分かった。

さらに、中央教育審議会答申（平成20年1月）における国語に関する改善の具体的事項では、「課題に応じて必要な文章や資料等を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する」ことが述べられている。また、小学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月）では、「言語能力は、～中略～ 相手、目的や意図、場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする力として育成することが大切である。」と述べており、課題や目的などに応じて必要な文章や資料等を正確に理解する力の育成を求めている。

本研究では、その中でも読む力に着目し、研究主題を「目的に応じた的確に読む力を育てる」とした。「目的に応じて読む」とは、児童が自らの課題を解決するために主体的に読むことであり、「的確に読む」とは、その課題を解決するためには何を読み取る必要があるかを明確にして正しく読むことである。

初めに述べたとおり、東京都教育委員会及び文部科学省の調査では、目的に応じて文章を読み、意図や理由を推論したり、複数の情報を結び付けながら必要な情報をまとめたりすることに課題があった。これは、説明的な文章の解釈に関する指導事項に関連する「順序を考えながら読む」「中心となる語や文を捉える」「文章全体の構成や内容を捉える」などの力が十分身に付いていないことの現れと思われる。そこで、説明的な文章の指導事項を確実に押さえることで、目的に応じた的確に読む力を児童に確実に身に付けさせることができると考え、副主題を「説明的な文章を読むことを通して」とした。

Ⅱ 研究の視点

本研究は、以下の視点をもって取り組む。

【視点1】言語活動の工夫

課題や目的などに応じて必要な文章や資料などを正確に理解する力を育成するためには、児童が明確な目的意識をもって学習に取り組むことが重要である。そこで、単元の導入から終末まで貫く言語活動（以後「単元を貫く言語活動」とする。）を設定する。設定に際しては、単元を通して身に付けさせたい言語能力を明確にし、それに適した言語活動を精選する。

【視点2】「的確に読む」指導の工夫

指導においては、自らの課題を解決するために、何を読み取る必要があるのかを児童に意識させるとともに、的確に読み取るために必要な力を明確にした指導を行うことが重要である。的確に読むために必要な力は、「順序を考えながら読む」「中心となる語や文を捉える」「文章全体の構成や内容を捉える」「目的に応じて引用したり、要約したりする」など、説明的な文章の解釈や自分の考えの形成に関わることに関連させる。

【視点3】交流の充実

児童が目的意識をもって交流に臨み、相手の考えを取り入れたり、自分の考えを見直したりする中で繰り返し文章を読むことは、的確に読む力を育む上で重要である。そこで、文章に立ち戻りながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができるような交流の方法や場の設定の仕方を工夫する。

Ⅲ 研究の仮説

教科書教材を的確に読み取るために必要な力を明確にし、その力を身に付けるために適した単元を貫く言語活動を設定し充実させていけば、目的に応じた的確に読む力が育つであろう。

Ⅳ 研究の方法

1 調査研究

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」や平成24年度「全国学力・学習状況調査」等を参考にして、東京都の児童の国語の能力を分析する。

2 教員の意識調査

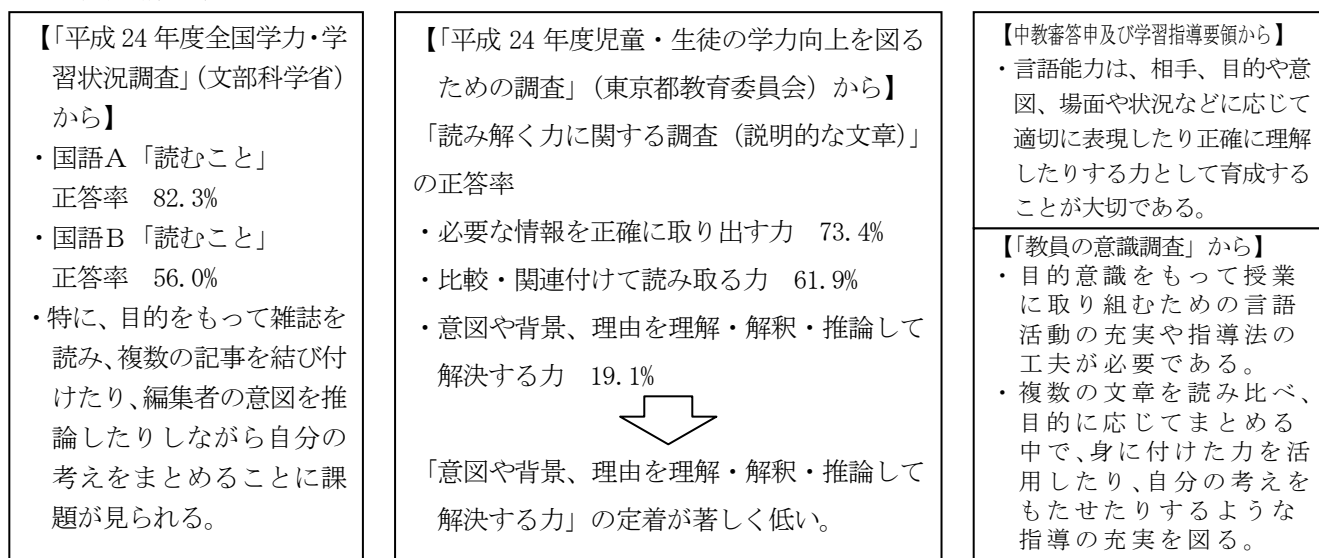
教員に対して「説明的な文章の指導」に関する調査を行い、その分析から説明的な文章の指導についての実態を把握する。

3 授業検討・検証授業

教育研究員の月例会や、低・中・高学年分科会において、研究主題に迫るための授業を展開する。また、検証授業を行い、仮説の検証を図る。

V 研究の内容

1 研究構想図



【目指す児童像】

<p>～低学年～</p> <p>興味・関心に応じて、順序を考えながら、自分の経験と結び付けて読むことができる児童</p>	<p>～中学年～</p> <p>目的に応じて、内容の中心を捉え要約したり、段落相互の関係を考えたりしながら読むことができる児童</p>	<p>～高学年～</p> <p>目的に応じて、筆者の意図や思考を想定しながら、文章全体の構成を捉えて読むことができる児童</p>
--	---	--

【研究主題】

目的に応じた的確に読む力を育てる指導法の工夫
～説明的な文章を読むことを通して～

【研究の仮説】

教科書教材を的確に読み取るために必要な力を明確にし、その力を身に付けるために適した単元を貫く言語活動を設定し充実させていけば、目的に応じた的確に読む力が育つであろう。

【研究の視点】

視点 1

言語活動の工夫

課題や目的などに応じて必要な文章や資料などを正確に理解する力を育成するためには、児童が明確な目的意識をもって学習に取り組むことが重要である。そこで、単元の導入から終末まで貫く言語活動を設定する。設定に際しては、単元を通して身に付けさせたい言語能力を明確にし、それに適した言語活動を精選する。

視点 2

「的確に読む指導」の工夫

指導においては、自らの課題を解決するために、何を読み取る必要があるのかも児童に意識させるとともに、的確に読み取るために必要な力を明確にした指導を行うことが重要である。的確に読むために必要な力は、「順序を考えながら読む」「中心となる語や文を捉える」「文章全体の構成や内容を捉える」など、説明的な文章の解釈に関する事項に関連させる。

視点 3

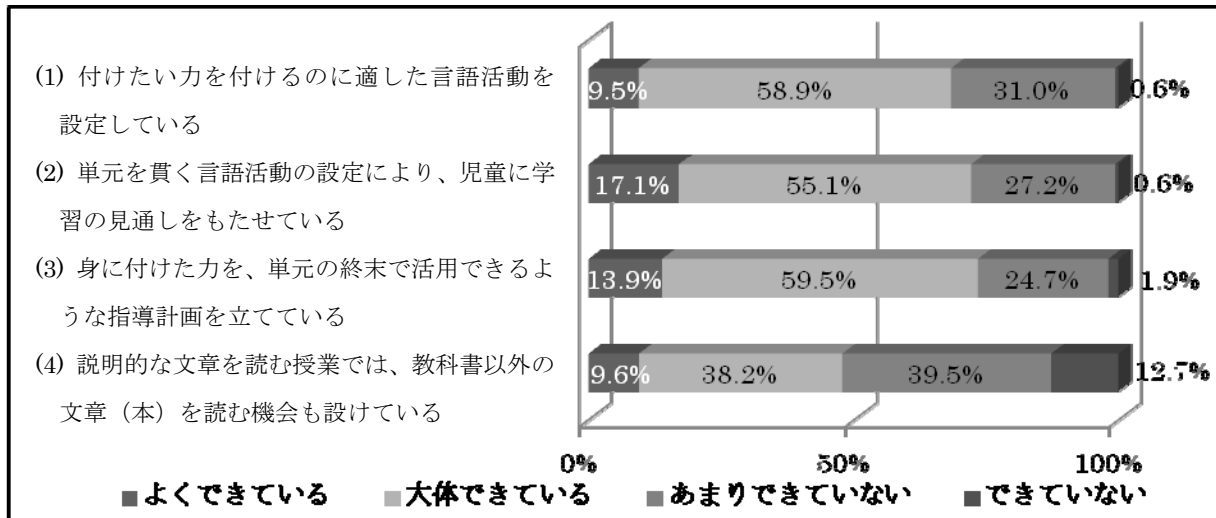
交流の充実

児童が目的意識をもって交流に臨み、相手の考えを取り入れたり、自分の考えを見直したりする中で繰り返し文章を読むことは、的確に読む力を育む上で重要である。そこで、文章に立ち戻りながら、自分の考えを広げたり深めたりできるような交流の方法や場の設定の工夫をする。

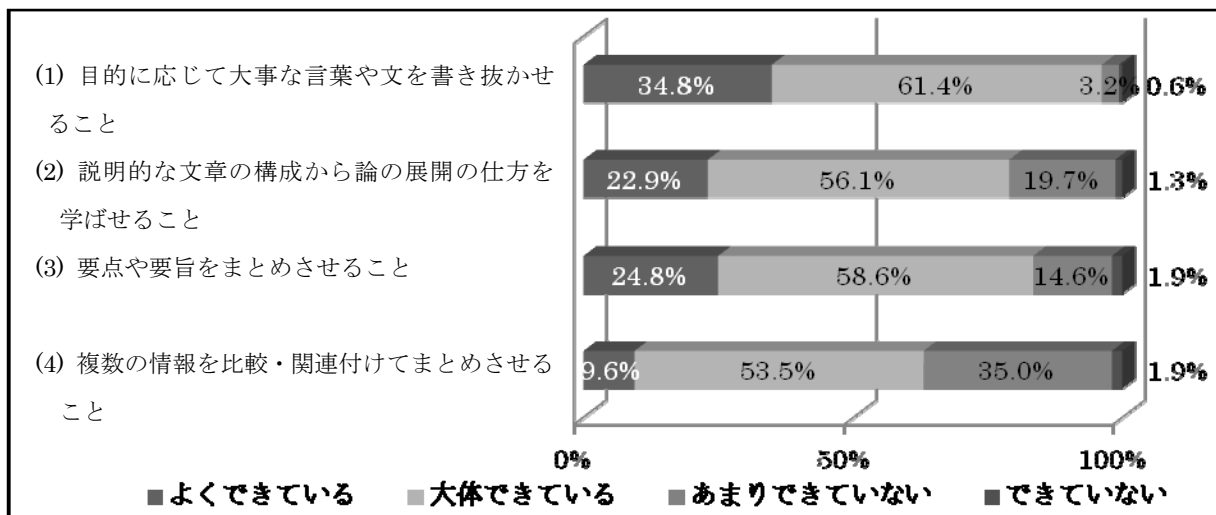
2 教師の意識調査 [平成 25 年度教育研究員(小学校国語)の所属校 15 校の教員 158 人に実施]

調査項目と結果

【言語活動の工夫について】



【「的確に読む」指導の工夫について】



考察

【言語活動の工夫について】

・「(1) 付けたい力を付けるのに適した言語活動を設定している」の結果によると、付けたい力を付けるのに適した言語活動を設定している教員が7割に満たない状況である。また、説明的な文章を読む授業において、教科書以外の文章(本)を読む機会を設けている教師は5割に満たない状況である。

【「的確に読む」指導の工夫について】

・9割以上の教員が目的に応じて大事な言葉や文を書き抜かしているが、取り出した複数の情報を比較・関連付けてまとめさせている教員は約6割という状況である。

これらの結果から、児童が目的意識をもって授業に取り組むための言語活動の充実や指導法の工夫が必要であることが分かる。また、複数の文章を読み比べ、目的に応じてまとめる中で、身に付けた力を活用したり、自分の考えをもたせたりするような指導の充実を図る必要があることが分かる。

3 研究の実際

本研究は、児童の「目的に応じて的確に読む力」を高めることをねらいとしている。そのために、3つの視点に沿って研究を進めてきた。

【視点1】言語活動の工夫

「目的に応じて的確に読む力」を高めるためには、まず、児童が明確な目的意識をもって学習に取り組むことが重要である。そのために児童に身に付けさせたい力に適した単元を貫く言語活動を精選することが大切であると考えた。

低学年分科会では、事柄の順序に気を付けながら、遊び方とその訳について読み取ることが身に付けさせたい力の一つとして設定した。そして、その力を付けるのに適した単元を貫く言語活動として「1年生といっしょにあそぶために、あそび方しょうかいカードを作ろう」を位置付けた。紹介カードを作るためには、「遊び方」「そのわけ」を事柄の順序にそって読み取り、まとめる力が必要となる。児童が、その力を身に付けるために教科書教材「おにごっこ」を読み取るとともに、自分の紹介したい遊びの紹介カードを作るといった目的意識をもって単元を貫く言語活動に取り組めるようにした。

【視点2】「的確に読む」指導の工夫

「的確に読む力」を高めるためには、まず、児童が自らの言語活動の遂行のために教科書教材からどのようなことを読み取ることが必要であるかを明確に意識できるようにすることが大切である。そして、的確に読むために必要な力を明確にすることが大切である。そのために、分科会ごとに「説明的な文章の解釈に関する指導事項」に関連させて的確に読むために必要な力を設定した。また、単元を貫く言語活動に、的確に読むために必要な力を活用する場面を繰り返し設定することで、身に付けた力が確実に定着するようにした。

中学年分科会では、教材文「すがたをかえる大豆」の読み取りで習得した「中心となる語や文の捉え方」「説明文の段落構成や説明の仕方」などを、自分が選んだ本の読み取りに活用する時間を第二次の後半に設定した。このことにより、第一次で児童に示した「めくってへんしんカード」を作成するために、教材文「すがたをかえる大豆」を正しく読み取るという目的意識を明確にもたせることができた。また、食材の加工の仕方とその流れが分かるワークシートを作成することで、中心となる語や文を探し出す力が確実に身に付くようにした。

【視点3】交流の充実

児童が文章に立ち戻りながら、自分の考えを広げたり深めたりできるような交流の方法や場の設定の仕方を工夫した。

高学年分科会では、学習内容の定着と自らの考えを広げたり深めたりすることを充実させるため、「一人読み→グループ交流→全体交流→一人読み」という流れを設定した。自分の力で読み取ったことを4～5人の仲間や全体に投げかけたり、友達の考えを取り入れたりとできるようにした。また、特にグループ交流では文章に立ち戻りながらお互いの考えを整理し、比較・検討しやすいように交流シート上で付箋を重ねたり移動させたりする話合いの仕方を指導し、自分の考えと友達の考えを比較したり整理・分類したりすることができるようにした。絵画の解説文を読み合う交流では、同じ絵画を選んだ児童同士で交流させることで、人によって考え方が異なることや、同じ感じ方をしていても見る視点が違っていることなどを知ることを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにした。

低学年分科会の実践

- 1 単元名 1年生といっしょにあそぶために、あそび方しょうかいカードを作ろう
教材名「おにごっこ」 森下 はるみ (第2学年)

2 単元の目標

- 遊び方の工夫を紹介するために、書かれていることを自分の知っていることや経験と結び付けながら、読もうとすることができる。
- 経験したことなどから書くことを決め、構成に沿って文章を書くことができる。
- 事柄の順序に気を付けながら、遊び方とその訳について読み、自分の経験と結び付けながら思いや考えを発表することができる。
- 言葉には経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none">・自分の経験と結び付けながら1年生に遊び方を紹介しようとしている。・分かりやすい紹介の仕方を学ぶために教材を進んで読もうとしている。	<ul style="list-style-type: none">・遊び方の工夫を紹介するために、遊び方とその訳の順序に沿って、簡単な構成の文章を書いている。(イ)	<ul style="list-style-type: none">・順序に気を付けながら読み、遊び方とその訳についてまとめている。(イ)・遊び方の工夫を紹介するために、文章を読み、経験と結び付けながら自分の思いや考えを発表している。(オ)	<ul style="list-style-type: none">・自分が鬼ごっこをしたときのことを紹介することで、言葉で表現すると経験したことを伝えることができることに気付いている。(イ(ア))

4 教材の特性

本教材では、児童にとってなじみの深い、幾つかのおにごっこを例に挙げ、みんなが楽しく遊ぶために、それぞれの遊び方が工夫されてきたことが述べられている。

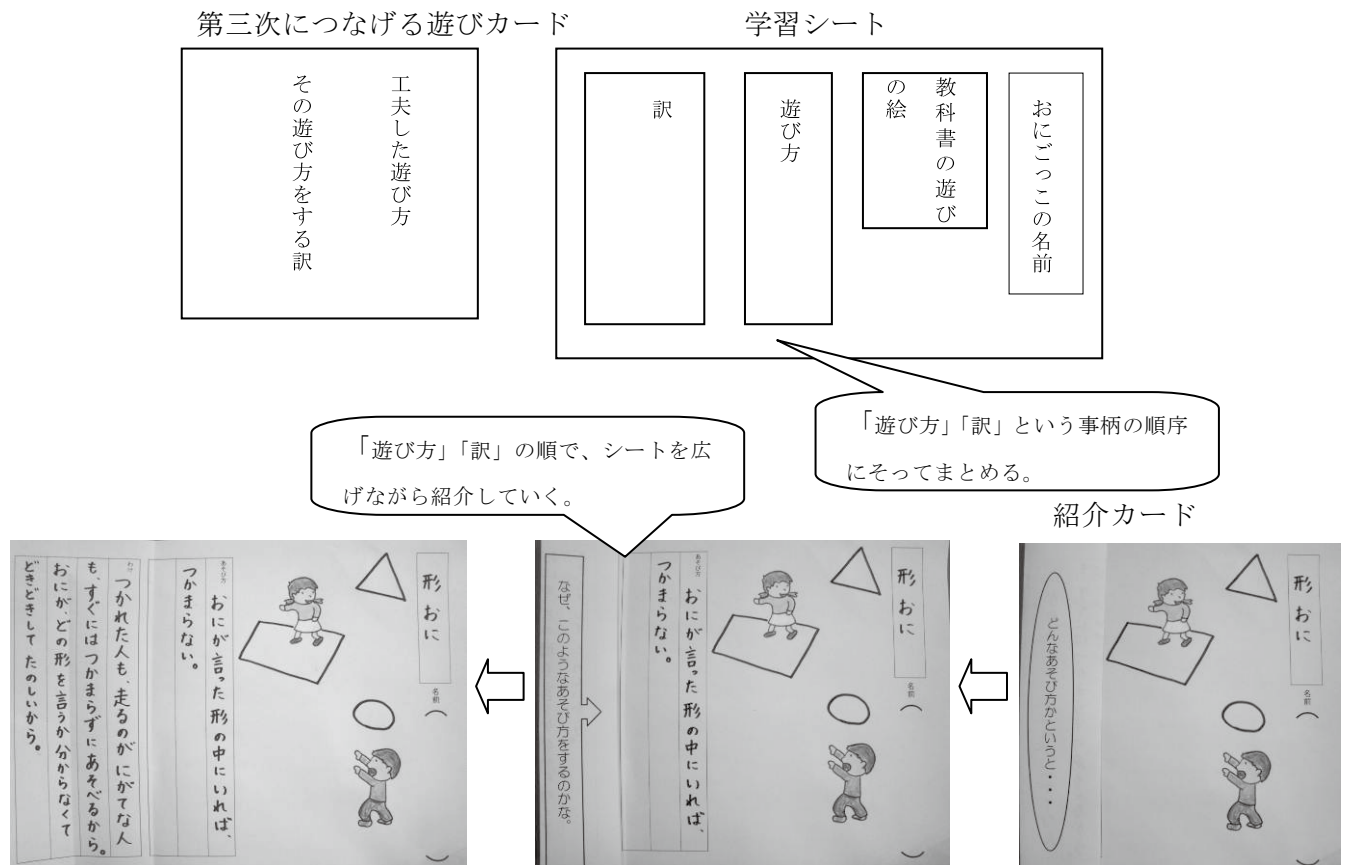
「おにごっこ」は、「始め」「中」「終わり」の構成が分かりやすく、「中」の部分も、「遊び方」と「その遊び方をする訳」が述べられ、そのまとまりの繰り返しになっている。事柄の順序を意識しながら、内容を読み取る力を付けるのに適した教材である。また、児童は、「こんな工夫をしたことがある」「似た遊びをしたことがある」など、経験と結び付けながらそれぞれの鬼ごっこの遊び方を読むことができる教材である。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 言語活動の工夫

単元を貫く言語活動として、「1年生といっしょにあそぶために、あそび方しょうかいカードを作ろう」を位置付けている。この言語活動は、「遊び方」と「その遊び方をする訳」をカ

ードに書き、1年生に紹介するという活動である。第二次で使う教材文に出てくるおにごっこをまとめる学習シートや、第三次で使う自分で工夫した遊び方を紹介するカードは、どちらも事柄の順序に沿って分けて書き、それを見ながら紹介できるという特徴がある。そのため児童は、事柄の順序を意識して読む力を付けることができる。学習シート及び紹介カードの構成は、以下のとおりである。



第一次では、1年生への紹介の仕方を、教師が自ら実演し提示することで、興味関心を抱かせながら学習の見通しをもてるようにする。そして、1年生と楽しく遊ぶためにはどうしたらよいかという課題意識をもたせた上で教材を読み、遊び方の工夫をすればよいことに気付かせる。また、休み時間には、遊び方を工夫しながら学級の友達と遊んでみるように声を掛けておくことで、第三次で遊び方を紹介する際、工夫して楽しかったことや、やってみて思ったことを、経験を基に書けるようにした。

第二次では、「おにごっこ」を教材として、事柄の順序に気を付けながら、「遊び方」と「その遊び方をする訳」を読み取っていく。はじめに、第2段落に出てくるおにごっこについて、「遊び方」と「その遊び方をする訳」を順序に沿ってまとめていく。その後、そこで学んだことを生かし、第3段落に出てくる3つのおにごっこの中から児童自身で1つを選び、必要な事柄を書き抜きまとめていく。児童は、教材文に出てくるおにごっこについて友達の説明を聞いたり、実際にやってみたりしながら理解し、みんなが楽しく遊べるように遊び方が工夫されてきたことを読み取っていく。授業の終末では、そのおにごっこをした経験から、自分で工夫した遊び方と、その遊び方をする訳を遊びカードに書く時間を設定する。そうすることで、第三次で1年生に紹介する遊び方を、第二次から考えていけるようにした。

第三次での紹介カードは第二次の学習シートと同じ構成にし、学んだことを活用できるようにした。第二次の学習から取り組んでいた自分で工夫した遊び方を、事柄の順序に気を付けながら紹介カードにまとめ直す。交流では、まずは学級の友達と紹介し合う。互いに工夫した遊び方の良さを伝え合い、1年生への紹介に向け自信をもたせたい。1年生との交流では、「遊び方」と「訳」という事柄の順序に気を付けながら紹介することで、1年生にも分かりやすく紹介できるということに気付かせたい。またどの遊び方も「みんなが楽しめるように工夫されてきた」という、教材のまとめの部分とつなげ、本単元を学習したことの良さを実感させたい。

(2) 「的確に読む」指導の工夫

低学年分科会では、「的確に読む」ことを指導事項の(イ)に関連して、「順序を考えながら、内容の大体を読む」ことと捉えている。

指導の工夫として以下のことを挙げる。

- 「遊び方」と「その遊び方をする訳」に分けてまとめ、段落内での事柄の順序を意識する。

教材の読み取りでは、「遊び方」と「その遊び方をする訳」を分け、事柄の順序を捉えられるようにした。第三次の紹介カードでも同じように分け、事柄の順序に気を付けながら書き、まとめていくようにする。

- 挿絵を基に、興味・関心をもった遊びについてまとめる。

第二次では、1つの遊びを例に事柄の順序に沿った読み取り方を学習した後、挿絵を基に児童が興味・関心をもった遊びを選んでまとめる場面を設定した。自分が興味・関心をもったところを選び、学んだことを生かして読み取るため、児童は主体的に学習に取り組んでいくことができる。まとめる際には、必要な部分だけを書き抜くよう指導する。身に付けた力を活用し、自分で教材を読み取ることは、事柄の順序を意識して読み取る力をより確かに付けることになる。第三次で自分の考えた遊び方を書く際にも、その力はいかされたと考えた。

- 「中」の部分での、筆者の述べ方の順序の良さを話し合う。

第二次でまとめたものを比較すると、筆者がどの段落も「遊び方」「訳」の順で文章を構成していることが分かる。なぜそのような並びになっているのか話し合う場面を設定し、伝えたい事柄が最初にきていることに気付くようにする。中の部分で出てくる遊び方の工夫が、簡単なものから複雑なもの順で述べられていることにも気付かせ、筆者の論の述べ方の良さにも目が向けられるようにしたい。

(3) 交流の充実


本単元の学習を深めるために、第二次と第三次に交流の場面を設定した。

まず、第二次では、自分で選んだ遊び方の訳について交流する。どの文を基に考えたのか確かめながら聞くようにする。第三次では、自分が工夫した遊び方をカードに書き、紹介し合う。友達の工夫した遊び方の良さに気付くようにする。さらには、事柄を順序良く

まとめることで、分かりやすく紹介することができることに気付かせたい。

6 学習指導計画（9時間扱い）

次	時	学習活動	手だて	評価規準（評価方法）
一	1	<p>○1年生と仲良く遊ぶために、いろいろな遊び方の工夫を考え、紹介することを知り、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>1年生といっしょにあそぶために、あそび方しようかいカードを作ろう</p> </div> <p>○遊びをもっと楽しくするためにどうしたらよいか発表し合う。</p> <p>○本文を読み、感想を発表し合う。</p> <p>○教材を「始め」「中」「終わり」の3つのまとまりに分け、問いの文を確かめる。</p> <p>（休み時間を使い、遊び方を工夫して、いろいろな鬼ごっこをしてみよう伝える。）</p>	<p>○紹介カードの見本や第三次での紹介の仕方を提示し、学習の見通しをもたせる。</p>	
二	2 3	<p>○第2段落の遊び方を確かめ、赤でサイドラインを引く。</p> <p>○第2段落を読み、その遊び方をする訳に、サイドラインを引く。</p> <p>○サイドラインを引いたところを友達と交流する。</p> <p>○その遊び方をする訳を学習シートに書く。</p> <p>○自分で工夫した遊び方と、その遊び方をする訳を遊びカードに書く。</p> <p>○他の3つの遊び方を確かめ、赤でサイドラインを引く。</p> <p>○教科書の挿絵から、次時に自分がまとめていきたい遊びを選び、遊びの名前を付ける。</p>	<p>○遊び方は赤、訳は鉛筆でサイドラインを引かせる。</p> <p>○「この先」が「線の先」であることを挿絵を使いながら確かめさせる。</p> <p>○2～3人のグループで交流させる。</p> <p>○書かれていることと、自分の経験を結び付けて書かせる。第三次で紹介する遊び方につながるようにさせる。</p> <p>○第3段落と、第4段落の「～あります。」の文末に着目させる。</p> <p>○3つの挿絵を提示し、どの段落に書かれているか確かめさせる。</p>	<p>[関]普段遊んでいる遊びを想起し、1年生と遊ぶ時にもっと楽しくなる工夫について考え、発表している。（観察）</p> <p>[読イ]事柄の順序に気を付けながら、おにが楽しめる視点から訳を読んでいる。（学習シート・発表）</p>

4	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が選んだ挿絵に対応する部分を読み、その遊び方をする訳について、サイドラインを引く。 ○サイドラインを引いたところを、同じ遊びを選んだ友達と交流する。 ○その遊び方をする訳を学習シートに書く。 ○それぞれの遊び方を選んだ児童から、数名が全体に発表する。 ○事柄の順序に気を付けて書くことよさを確かめる。 ○自分で工夫した遊び方と、その遊び方をする訳を遊びカードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊び方を確かめ、訳は鉛筆でサイドラインを引かせる。 ○2～3人のグループで交流させる。 ○友達の考えがより適切だと気付いたら、変えてもよいと助言する。 ○「遊び方」「訳」の順に書くと相手に伝わりやすいことを理解させる。 ○書かれていることと、自分の経験を結び付けて書かせる。第三次で紹介する遊び方につながるようにさせる。 	 <p>[読イ]事柄の順序に気を付けながら、自分が選んだ遊びの訳を、逃げる人の視点から読んでいる。 (学習シート・発表)</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ○第4段落を読み、その遊び方をする訳について、サイドラインを引き、学習シートに書く。 ○第5段落を読み、その遊び方をする訳について、サイドラインを引き、学習シートに書く。 ○第4段落と、第5段落のつながりについて考える。 ○文章構成上の順序について考える。 ○自分で工夫した遊び方と、その遊び方をする訳を遊びカードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊び方を確かめ、訳は鉛筆でサイドラインを引かせる。 ○「ところが」という接続語に着目させる。 ○簡単な遊び方から、複雑な遊び方になっていることを確認させる。 ○どのおにごっこも「遊び方」「訳」の順になっていることに気付かせる。 ○書かれていることと、自分の経験を結び付けて書かせる。第三次で紹介する遊び方につながるようにさせる。 	<p>[読イ]事柄の順序に気を付けながら、訳を両者の視点から読んでいる。 (学習シート・発表)</p>

	6	<p>○「おにごっこ」の教材で筆者が言いたかったことを確かめる。</p> <p>○第三次で紹介できそうな遊び方が他にもないか考え、発表し合う。(発表されたものは、休み時間に遊んでおく。)</p>	<p>○題名や問いの文、第6段落などを読み、筆者は何をどのように伝えたかったのか確かめさせる。</p> <p>○前時までの遊びカードに、付け足してもよいと助言する。</p>	<p>[読オ]今までの経験を振り返り、紹介する遊び方を考え、発表している。(学習シート・発表)</p>
三	7 . 8	<p>○1年生に紹介したい遊びを決める。</p> <p>○選んだ遊びの「遊び方」と「訳」を経験を基に紹介カードに書く。</p> <p>○遊び方に合った絵を描く。</p> <p>○似た遊びを選んだ子と紹介カードを読み合う。</p>	<p>○第二次で考えた遊びカードから選ぶようにさせる。</p> <p>○必要に応じて手つなぎ鬼のように付け足した遊び方についても書くよう助言する。</p> <p>○上手に紹介できていると思う点や、もっと工夫すると良い点について伝え合うよう助言する。</p>	<p>[書イ]遊んだ時のことを思い出し、事柄の順序に気を付けながら遊び方と訳を紹介カードに書いている。(紹介カード)</p> <p>[読オ]自分で考えた遊び方を友達と紹介し合っている。(発表)</p>
	9	<p>○違う遊びを選んだ友達と紹介カードを使って交流する。</p> <p>○紹介カードを使って1年生に紹介する。</p> <p>○1年生に上手に伝えられたか振り返る。</p> <p>(発表した遊びは、生活科や特別活動の時間に1年生と一緒に遊ぶ。)</p>	<p>○友達の工夫した遊び方のよい点に気付くよう助言する。</p> <p>○「遊び方」、「訳」という事柄の順序に沿って紹介するよう助言する。</p> <p>○遊び方を工夫したことで、遊びが楽しくなったことを確認し、学習のまとめをさせる。</p>	<p>[関]自分の経験を基にして考えた工夫した遊び方を、1年生に紹介しようとしている。(観察・発言)</p>

中学年分科会の実践

- 1 単元名** 中心となる語や文をとらえて「めくってへんしんカード」を作り、友達にしょうかいしよう
教材名「すがたをかえる大豆」 国分 牧衛
「食べ物のひみつを教えます」 (第3学年)

2 単元の目標

- ・食べ物について書かれたいろいろな読み物や図鑑を読み、目的をもって中心となる語や文を探し、自分が書く説明文に生かそうとすることができる。
- ・「めくってへんしんカード」を作るために、段落相互の関係を考えながら中心となる語や文を使い、自分の考えが明確になるように文章を構成することができる。
- ・「めくってへんしんカード」を作るために、教材文や、並行読書をしてきた本の中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら内容を的確に読むことができる。
- ・教材文で、指示語や接続語が文と文とのつながりに果たす役割を理解し、「めくってへんしんカード」を書く際に使うことができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・「めくってへんしんカード」を書くために必要な情報を得るために、食べ物について書かれた本や文章を読もうとしている。	・「すがたをかえる大豆」で学んだ段落相互の関係や中心となる語や文についての知識をいかし、自分の考えが明確になるように、文章構成を工夫して書いている。(イ)	・「めくってへんしんカード」を作るために、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、教材文や並行読書してきた本を読んでいる。(イ) ・文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(オ)	・文章中に使われている指示語や接続語の働きを理解し、使っている。(イ(ク))

4 教材の特性

本単元は、読むことの教材「すがたをかえる大豆」で習得した段落相互の関係や事実と意見との関係を考えることを、書くことの教材「食べ物のひみつを教えます」で活用していく単元構成となっている。

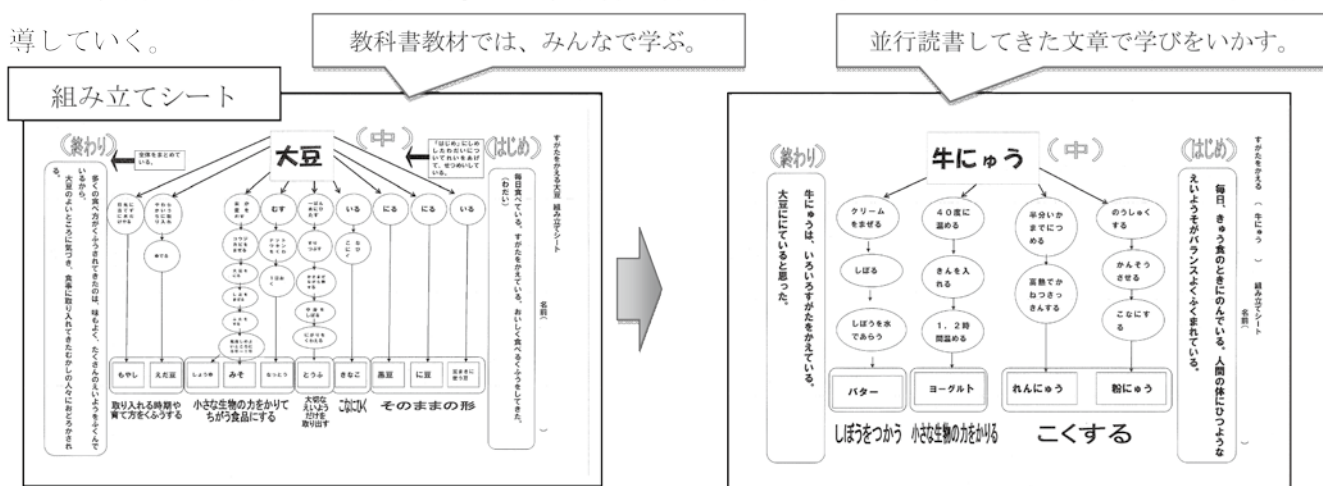
「すがたをかえる大豆」は、「始め」「中」「終わり」の段落構成が明確で、「中」の部分では、大豆の加工食品を「次に」「また」「さらに」などの言葉を使い、順番に紹介している。また、おいしく食べるためにどのような工夫をしたのかが、形式段落の初めに書かれているなど、中心となる語や文を捉えやすい文章となっている。そのため、段落相互の関係や事実と意見との関係を考える力を付けさせる上で有効な教材である。

また、「すがたをかえる大豆」は、身の回りにある大豆を使った食べ物や、その加工食品について書かれたもので、児童にとって身近な内容となっている。しかし、大豆の加工食品は、一見しただけでは大豆からできているとは分かりにくいものも多く、本教材文を読むことで、児童は驚きとともに知ることの喜びを感じることができる内容となっている。

第三次では、「組み立てシート」の段落構成図を基に、自分の選んだ食材の変身について「めくってへんしんカード」にまとめていく。その際「すがたをかえる大豆」で学習した接続語、文末表現を参考にして書くように指導する。また、「すがたをかえる大豆」での事実と意見との関係に着目させ、ワークシートにまとめさせる。その学習を生かし食材について調べてまとめた事実と、それに対する自分の意見や感想を同じようにワークシートにまとめさせ、「めくってへんしんカード」を書く際に活用できるようにする。

(2) 「的確に読む」の指導の工夫

中学年分科会では、「的確に読む」ことを指導事項の(イ)に関連して、「目的に応じて、中心となる語や文を捉えること」「段落相互の関係を考えること」と捉えている。並行読書の際に文章の中心となる語や文を捉え、段落構成図のワークシートにまとめるために、教材文である「すがたをかえる大豆」の中心となる語の探し方を指導する。「すがたをかえる大豆」では、「中」の文章で中心となる文である食べ物の作り方の工夫が段落の初めに書かれており、その作り方がその後書かれているといった頭括型の構成になっている。段落構成図の「組み立てシート」にまとめる学習を通して、その文章の特性をつかませ、良さに気付かせていきたい。また、自分の書く説明文にもその良さが活かしていけるように指導していく。



(3) 交流の充実

本単元の学習を確かなものにするために、第二次と第三次に交流の場面を設定した。


第二次では、まず、教材文で段落構成図の「組み立てシート」を書いて確認をする。次に、同じ本を選んだ児童同士で、その本の文章の「組み立てシート」を書いて交流する。自分が書いた「組み立てシート」と、友達が書いたものの違いとその理由を聞き、加除訂正したり、友達に対してアドバイスしたりすることを通して、習得した力を活用できるようにしていく。


第三次では、自分が書いた「めくってへんしんカード」を友達と紹介し合う。その際、単に楽しみとして友達の作品を味わうだけでなく、接続語・文末表現の工夫、段落構成、中心となる語や文が分かりやすいかなどといった、文章の良さを確認しながら読むように助言する。また、文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付かせる。こうすることで、目的をもって説明文を読ませることができるとともに、友達の文章の書き方の良さを知り、次の学習にもいかしていけるようになるのではないかと考えた。

6 指導計画（11時間扱い）

時	次	学習活動	手だて	評価規準（評価方法）
一	1	「めくってへんしんカード」を作ろう		
		<p>○調理後、加工後の食品を知り、大豆や身の回りの食べ物に対する興味・関心をもつ。</p> <p>○「めくってへんしんカード」を作って、友達や家の人に紹介することを学ぶ。</p> <p>○本文を読み、学習の計画を立てる。</p> <p>○姿を変える食べ物について書かれた本を選び、読む。</p>	<p>○具体物、写真を提示し、学習への意欲を高める。</p> <p>○「めくってへんしんカード」の見本を教師が提示し、学習への意欲を高めるとともに具体的な作成物を示すことで、学習の見通しをもたせる。</p> <p>○国語の時間以外にも自分が興味・関心をもった本の並行読書をするように声を掛ける。（単元を通して、並行読書を行う。）</p>	<p>[関]進んで単元計画の話し合いに参加したり、興味をもって読書したりしている。（観察）</p>
二	2・3	<p>○「すがたをかえる大豆」から説明の仕方を学び、「めくってへんしんカード」にいかすことを知る。</p>	<p>○「すがたをかえる大豆」から説明の仕方を学ぶという目的意識をもたせる。</p>	
		「めくってへんしんカード」を作るための組み立てシートを作ろう		
		<p>○「すがたをかえる大豆」の文章全体の組み立てを捉える。</p> <p>○組み立てシートの使い方を知る。</p> <p>○説明の中心になる文について理解する。</p>	<p>○形式段落を付けさせる。</p> <p>○始め・中・終わりに分けさせ確認する。</p>	<p>[読イ]文章全体を始め・中・終わりの大きく3つに分け、それぞれの部分のおおまかな内容と役割を捉えている。</p> <p>（読：教科書・ワークシート・発表）</p>



		○組み立てシートに「はじめ」を書く。	○「はじめ」で中心となる文の見付け方を指導する。	
4 ・ 5	○「すがたをかえる大豆」の第3から第7段落で読み取ったことを組み立てシートに書く。 	○自分が選んだ図書資料の中から目的に応じて中心となる語や文を書く。	○各段落の内容と写真を対比させることを手掛かりにさせ、組み立てシートに作り方、変身した姿を書き込ませる。 ○「すがたをかえる大豆」の組み立てシートをクラス全体で確認し、中心となる語や文の探し方を再確認する。 ○学んだことを生かして、並行して選んだ図書資料の組み立てシートに書くように声を掛ける。	[読イ]目的に応じて中心となる語や文を書き出し、「めくってへんしんカード」に必要な事柄を収集している。 (ワークシート・観察・発表)
6 ・ 7	○「すがたをかえる大豆」の第3から第7段落の中心となる文を見付ける。 ○「めくってへんしんカード」の中心となる文を見付ける。 ○「すがたをかえる大豆」の組み立てシートに、教科書にある指示語や接続語を書く。 ○図書資料の組み立てシートにも指示語や接続語を書く。 ○「すがたをかえる大豆」では、なぜこの順番に食材が書かれているのかを話し合う。	○段落を手掛かりにしながら食べ物の仲間分けをし、中心となる語や文を探すように声をかける。 ○食べ物の工夫について自力で読み取ることが困難な児童のために、教師側が支援内容を用意しておき、適宜支援の声掛けを行う。 ○教科書で学んだことを想起させる。	[言イ(ク)] 段落相互の関係に適した接続語を使って書いている。 (ワークシート・発表)	

		○「めくってへんしんカード」 に書く食品の順番を決める。	○なかなか順番を決められない児童には、「すがたをかえる大豆」と同じように、単純な変身から複雑な変身になっていくようにすると良いことを伝える。	[読イ]自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成している。 (ワークシート・観察・発表)
	8	○「すがたをかえる大豆」の「終わり」に書かれている内容を整理し、組み立てシートに書く。 ○「めくってへんしんカード」の「はじめ」と「終わり」を書く。	○それまでのまとめと、筆者の感想の二つが書かれていることを確認する。	[読イ]事実と意見との関係を考え文章を読み、整理している。(ワークシート・観察・発表)
三	9 ・ 10 ・ 11	「めくってへんしんカード」を書こう		
		○「めくってへんしんカード」 を書く。 	○「めくってへんしんカード」の組み立てシートをいかして文章を書くように指導する。 ○「すがたをかえる大豆」で学習した接続語、文末表現を参考にして書かせる。	[書イ]組み立てシートをいかし、段落相互の関係に注意して文章を書いている。(ワークシート・発表)
		○「めくってへんしんカード」の発表をする。	○内容についての感想だけでなく、分かりやすく説明しているところを見付けさせ、発表させる。	[読オ]自分の書き方と友達の書き方を比べ、分かりやすい説明に気付いている。(ワークシート・発表)

高学年分科会の実践

1 単元名 「一押し！アートギャラリー」わたしが選んだこの絵を解説します！

教材名 『鳥獣戯画』を読む 高畑 勲

「この絵、わたしはこう見る」 (第6学年)

2 単元の目標

- 自分の選んだお気に入りの絵の解説文を書くために、筆者のものの見方や表現の工夫に関心をもち、教材文を読んだり、絵から読み取ったことを伝え合おうとしたりすることができる。
- 自分の選んだお気に入りの絵の解説文を書くために、絵から考えたり感じたりしたことを整理し、読み手に伝わるように表現や構成を工夫して書くことができる。
- 絵と文章を照らし合わせ、事実と感想、意見などとの関係を押さえながら筆者のものの見方や表現の工夫を捉えながら読んだり、考えたことを伝え合うことで自分のものの見方を広げたり深めたりすることができる。
- 文章表現に着目して読み、語句と語句との関係を捉えることができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・「一押しアートギャラリー」を開くことに関心をもち、解説文を書くために本文を読もうとしている。 ・自分のものの見方を効果的に伝えようと、文章全体の構成の効果を考え、書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵から感じたことの中から書くことを決め、全体を見通して事柄を整理している。(ア) ・表現や構成を工夫し、事実と感想、意見などを区別するとともに、自分が選んだ絵の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりして、簡単な解説の文章を書いている。(ウ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵と文章を照らし合わせて、事実と感想、意見などとの関係を押さえながら、筆者の解説文の優れている点を読み取っている。(ウ) ・文章から読み取ったことを基に考えを交流し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と感想、意見などとの関係を押さえ、読み、文章の中での語句と語句の関係を理解し活用している。(イ(オ))

4 教材の特性

本教材は、国宝「鳥獣戯画」のよさを、アニメクリエイターである高畑勲氏が独自の視点で解説している絵画の解説文である。本文では解説する際に、絵から見える表情、筆さばき、時間の流れなど、絵の細かな点に着目し、絵画のどの表現方法にどのようなことを感じたかが明確に書かれている。さらに、それらを多様な表現で評価しているため、事実と感想、意見などとの関係を押さえながら読むことに最適であり、筆者の意図や思考を捉え、自らの考えをもつことができる文章だと考えた。

5 研究主題に迫るための手立て

(1) 言語活動の工夫

単元を貫く言語活動として『一推し！アートギャラリー』わたしが選んだこの絵を解説します！」を位置付けた。この言語活動は、解説文の書き方を教材文から習得し自分の選んだ絵の解説文を書く活動である。また、事実とそれに対する考えを関係付けたり、表現の仕方に着目したりすることを通して絵画の「何を見て、どう考えたか」を捉えながら読むとともに、伝えたいことをより効果的に相手に伝える方法を習得することができる活動である。

第一次では、教師が、一推しの絵とその解説文を児童に紹介することによって、『一推し！アートギャラリー』わたしが選んだこの絵を解説します！」という単元のめあてを児童につかませるとともに、図画工作の時間の中で鑑賞した絵画の中から「校内の児童に紹介したい絵画」を選ぶことで、一推しの理由を入れた解説文を書くイメージづくりをする。

第二次では、自分が選んだ絵画の解説文を書くことを常に意識しながら、「文章構成」「筆者が見て考えたこと」「表現の工夫」を教材文の叙述から習得する。また、習得したことをその時間の後半で自分の解説文を書くときに活用することで、身に付けさせたい力の定着を図る。このように、1単位時間で習得と活用を繰り返す学習を積み重ねることで、児童は常に目的をもって主体的に教材文を読むとともに、身に付けさせたい力を確実に定着させることができる。

第三次では、第二次で学習した内容を生かし、自分の一推しの絵画の解説文を書くための追加の取材、選材を行い、文章全体の構成を考えて解説文を書き上げ、『一推し！アートギャラリー』を開催する。

児童が選ぶ絵画については、教科書教材『鳥獣戯画』を読む」で習得したことを活用しやすいう、西洋絵画と日本絵画をおりませ、人物画や風景画、静止画と動きのある絵画などをバランスよく選出した。

(2) 「的確に読む」指導の工夫

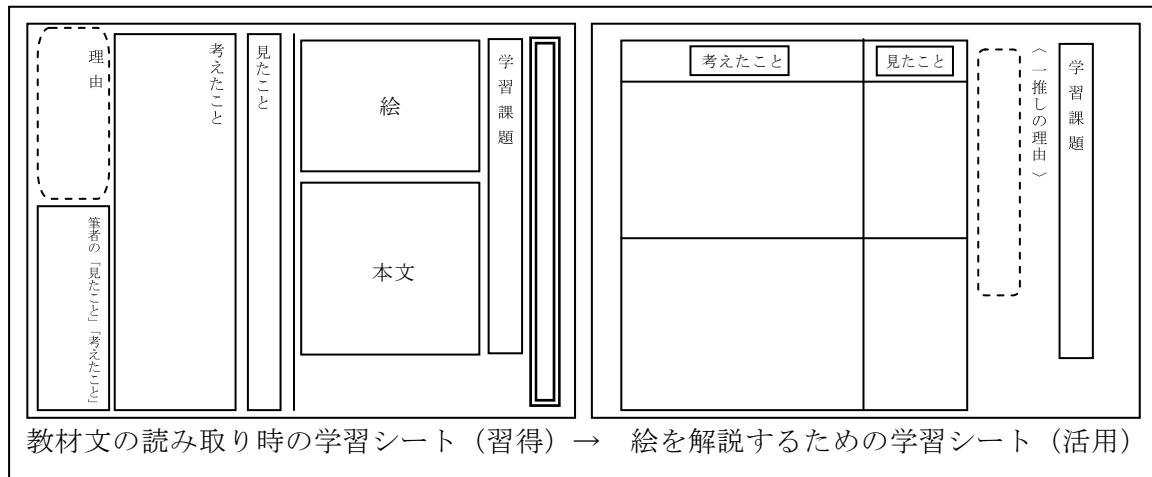
高学年分科会では、「的確に読む」ことを「目的に応じて、筆者の意図や思考を捉えて読み、自分の考えを明確にする」ことと捉えた。

教材文を「的確に読む」とは、筆者が、『鳥獣戯画』のどのようなところに着目し、どのように捉えて表現しているのかということ、叙述から読み取ることと考えた。指導の工夫として以下の4点を考えた。

○全文を通して読む活動と、焦点化して読む活動

第1・2時間目では、本文の特徴をつかみ、学習課題を把握するために教材文全体を通して読む学習を行う。一方、第4・5時間目には、筆者の着目する内容や表現方法など、その時間に身に付けさせたい力を習得するのに効果的な文章が特定できる場合には、常に本文全体を通読したり全ての段落を読み込んだりするのではなく、学習内容に必要な部分を教師が焦点化して学習を展開する。

○学習シートの工夫（一部抜粋）



1 単位時間の中で本文の内容を的確に読み、本文から学んだことを自分が解説文を書くときに生かすことができるよう、学習シートを「教材文の読み取り時の学習シート（習得）」と「絵を解説するための学習シート（活用）」の2段階に分け、学習内容を整理できるようにした。教材文を読み取る習得の段階では、筆者の表現の工夫や事実と感想を的確に読み取るために付箋を用いる。児童は、付箋を用いることで限られたスペースに書き込むために、より端的に内容を読み取ろうとするようになる。

本時では、習得の場面で筆者が「見たこと」「考えたこと」を教材文から付箋に書き出し、グループ交流の際に分類・整理をすることで、読み取った内容が適切かどうかを吟味する。また、活用の場面では、習得で学んだことを生かし、自らが選んだ絵画の分析を行う。

○絵画ごとの支援計画の作成

解説文を書く際、教材文を読む中で習得したことを活用しきれない児童に対して適切な支援ができるよう、7種類の絵画全てにおいて、事前に着目の仕方などの支援の方法を検討しておく。検討する項目としては、絵画ごとに児童が「どのようなイメージをもつか」「そのイメージをもつ場合、どこを見ると考えやすいか」について検討をしておく。

第4・5時間目の活用の場面や、第三次において各自で書く内容を推敲し、取捨選択する場面などにおいて活用する。

(3) 交流の充実

○一人読み→グループ交流→全体交流→一人読みの流れの重視

学習内容の定着や自らの考えを広げたり深めたりすることを充実させるため、交流活動を授業の中に積極的に取り入れる。全体交流の前にグループ交流を取り入れることで、児童は自分の考えに自信をもったり友達の考えのよさに気付いたりすることができる。グループの人数は、意見の出しやすさ、まとめやすさを考慮し、4～5人に設定する。

○具体物を活用した交流活動


どの児童も学習意欲をもち、交流によって自分の考えを深められるよう、交流シートや付箋などの具体物を活用する。そうすることで、お互いの思考を整理し、比較・検討することができ、活発な話し合いが行われる。また、自由に動かせる付箋や書き込みができる交流シート、短冊を効果的に活用することで、自分の考えと友達の考えを比較し、お互いの



考えの類似点や相違点を整理・分類することができると思った。

○グループ編成

同じ絵画を選んだ者同士で意見を交流する場面を設定する。「なぜそう感じたのか」、「なぜそう考えたのか」を交流させることで、同じ絵画でも人によって感じ方や考え方が異なることを理解させたり、逆に同じ感じ方を共有させたりして考えを広げ深めることができるようにする。

6 学習指導計画（9時間扱い）

次	時	学 習 活 動	手だて	評価規準（評価方法）
第一 次	1	○図画工作の学習で選んだ一推しの絵を思い出し、単元の学習のめあてを知る。	○教師が絵画を見せながら紹介することで単元を貫く言語活動を児童にイメージさせるとともに学習への意欲を高める。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">「一推し！アートギャラリー」わたしが選んだこの絵を解説します！</div> <p>○アートギャラリーや解説文が必要な理由を理解する。 ○筆者と鳥獣戯画について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">アートギャラリーを開くために用意する解説文のイメージをもとう</div> <p>○教材文『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者の主張を知る。（全文読解） ○自分の選んだ絵画について、一推しの理由を一言で表す。</p>	○アートギャラリーの写真や解説文を提示し、どのような学習を行うのかをイメージできるようにする。	
第二 次	2	○教材文『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者の書きぶりのよいところについて考える。（全文読解） ○書きぶりのよいところを、個々で付箋に書き出す。	○自分の選んだ絵画についての一推しの理由は、今後学習を進める中でより具体的にするので、ここでは一言でよいことを伝える。	[関]「一推しアートギャラリー」を開くために書く解説文のイメージをもち、自分の選んだ絵画について一推しの理由を表そうとしている。 (観察・ワークシート)
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">筆者の解説文の優れている点を見付けよう</div> <p>○個々で見付けた書きぶりの良いところを、グループで整理し、短冊に書き出す。 ○全体で、短冊の内容を整理する。</p>	○筆者の考えを読者に伝えるために効果的だと思う書きぶりに注目させ、優れていたり、自分が書くときに取り入れたいと思ったりする内容を個々で付箋に書かせる。 ○交流で付箋を整理しやすいように、交流シートをグループで1枚用意し、シート上で分類・整理させる。 ○分類した内容を短冊に書かせ、全体で筆者の書きぶりのよ	[関]考えを読者に伝えるために効果的だと思う書きぶりや、自分が解説文を書くときに取り入れたいと思う優れた書き方を見付けようとしながら本文を読んでいる。 (観察) [読オ]グループや学級全体での交流を通し、筆者の書きぶりのよさについて、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (付箋・短冊)

	<p>【分類の項目】 (①～③学習の流れ)</p> <p>①文章構成</p> <p>②「見たこと」「考えたこと」</p> <p>③表現の工夫</p>	<p>いところを整理する。</p> <p>○分類した項目一つ一つを、次時から詳しく読み取っていくことを伝える。</p>	
3	<p>【筆者の解説文の優れている点①】</p> <p>○主張を述べるために、どのような事例を挙げているのかを考える。</p> <p>○教材文全体の文章構成を考える。</p> <p>○主張と事例の関係をまとめる。</p>	<p>○主張、事例の書かれているところを押さえ、「書き出し」「事例」「主張」の関係を図式化して整理する。</p> <p>○主張につながる事例を挙げることで、より説得力のある文章となっていることを押さえる。</p>	<p>[読む]教材文から、主張と事例を押さえ、その関係性について考えたり、「書き出し」「事例」「主張」の構成になっていることを理解したりしている。(観察・学習シート)</p>
4	<p>【筆者の解説文の優れている点②】</p> <p>○第5段落を読み、筆者の「見たこと」と「考えたこと」について、個人で教材文の絵と叙述を照らし合わせながら考える。</p>  <p>○グループや全体での交流を通し、筆者が「見たこと」と「考えたこと」の関係を理解する。</p> <p>○「見たこと」と「考えたこと」の関係を明確に分けることを自分の選んだ絵画を見るときに活用する。</p>	<p>○筆者の解説文の優れている点②を学ぶために適している第5段落を提示して考えさせる。</p> <p>○筆者が「見たこと」と「考えたこと」について、叙述から言葉を書きぬき、その関係をまとめる。</p> <p>○グループ交流では、「表現の工夫」と混同しないように、考えた理由を叙述に照らし合わせて説明させる。</p> <p>○第5段落には、筆者の解説文の優れている点②と③の両方があることを押さえ、次時で③について詳しく学ぶことを伝える。</p>	 <p>[読む]本文の絵と文章を照らし合わせ、筆者の「見たこと」「考えたこと」を叙述から読み取り、その関係性を押さえている。(観察・学習シート)</p>
5	<p>【筆者の解説文の優れている点③】</p> <p>○第5段落を読み、筆者の「表現の工夫」について考える。</p> <p>○交流を通し、絵画を詳しく解説するために大切なことを整理する。</p> <p>表現の工夫→ 活用しやすい言葉</p> <p>・問いかけ ・予想 ・関連付け ・想像</p> <p>○筆者が「見たこと」「考えたこと」や「表現の工夫」を意識して第6段落を読む。</p> <p>○自分の選んだ絵画について、前時で考えた「見たこと」「考えたこと」の内容に、「表現の工夫」を書き加える。</p>	<p>○筆者の「表現の工夫」を、児童が解説文を書く際の項目として活用しやすい言葉でまとめる。</p> <p>○第5段落の読み取りをいかし、第6段落では自分の力で読み取らせるようにする。</p>	<p>[読む]筆者が「見たこと」と「考えたこと」を叙述から読み取り、その関係性を押さえたり、「表現の工夫」の効果を理解したりしている。(学習シート)</p>

第三次	6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 自分の一推しの絵のすばらしさをどのように伝えるかを考えよう </div>		
		<p>○筆者の解説文の優れている点①②③を振り返り、「一推しの絵の素晴らしさ」を読者に伝えるための効果的な方法を振り返る。</p> <p>○文章構成シートに、これまで書き溜めてきた付箋を貼る。</p> <p>○筋道の通った論の展開になっているかを確認し、書き溜めてきた付箋を加除訂正する。</p>	<p>○学習を通して学んできた内容を、教室掲示や学習シートを参照しながら振り返らせる。</p> <p>○書き溜めてきた付箋の中から、一推しの理由を解説するために必要なものを、全体を見通して整理させる。</p>	<p>[書ア]解説文を書くために、書き溜めてきた付箋の内容を、全体を見通して整理している。 (学習シート)</p> <p>[書ウ]表現や構成を工夫し、事実と感想、意見などを区別して構成シートを作成している。 (学習シート)</p>
	7・8	<p>○第6時間目に作成した構成シートを基に、解説文を書く。</p> <p>○書いた後も、何度も読み返し、誤字脱字がないか、伝えたいことが伝わるような書き方になっているかを確認し、解説文を完成させる。</p>	<p>○事実と感想、意見を分けて書いているか、表現や構成の効果を意識し、一推しの絵のよさが伝わる解説文になっているかを確認しながら書くように伝える。</p>	<p>[書ウ]一番伝えたいことが伝わるように、見た絵の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりしている。(解説文)</p> <p>[言イ(オ)]文章表現に着目し、語句と語句の関係を捉えて書いている。(解説文)</p>
9	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> アートギャラリーを開き解説文を読み合おう </div>			
	<p>○自分の解説文を「一推し！アートギャラリー」に掲示する。</p> <p>○友達と解説文を読み合う。</p> <p>○友達と、「見たこと」「考えたこと」について助言し合う。</p> <p>○単元全体を通して、学んだことを振り返る。</p>	<p>○友達の見聞文を読み、共感するところや新たな考えをもったこと、互いの見聞文で優れているところなどを伝え合うようにさせる。</p> <p>○「一推し！アートギャラリー」を開くことで、単元を通して身に付けた力を確認する。</p>	<p>[読オ]見聞文を互いに読み合い、考えたことを交流することで、自らの考えを広げたり深めたりしている。(観察・学習シート)</p>	

VI 研究の成果と課題

【各分科会の成果】

	成 果
低学年	<p>○第二次の学習シートでは、「遊び方」と「その遊び方をする訳」を分けて書くことで、児童は、事柄の順序を捉えることができた。第三次の紹介カードも同じ構成にしたことで、第二次で身に付けた力を活用して取り組むことができた。</p> <p>○自分の興味・関心をもった遊びを選んでまとめる場面を設定したことで、児童は前時に学んだことを生かし、主体的に取り組むことができた。</p>
中学年	<p>○教科書教材で身に付けたことを自らの課題を解決するときに活用することを繰り返すことで、中心となる語や文を捉えたり、段落相互の関係を考えたりすることができた。</p> <p>○単元を貫く言語活動として、本単元の終末に「めくってへんしんカード」を書く学習を設定したことで、児童が目的をもって主体的に学習に取り組むことができた。</p>
高学年	<p>○単元を貫く言語活動を「『一押し！アートギャラリー』私が選んだこの絵を解説します！」とし、自分で選んだ絵の解説文を書く学習を設定したことで、目的意識をもって単元全体の学習に取り組むことができた。</p> <p>○第二次では教材文から読み取ったことを生かして書く活動を継続的に取り入れたことで、教材文から学び取ろうという児童の学習意欲が高まるとともに、教材文から読み取った解説文を書くために効果的な視点や、構成・表現の工夫を自分の課題に生かすことができた。</p>

【全体の成果と課題】

成 果	課 題
<p>○指導者が目的に応じて中心となる語や文を捉えたり、文章全体の構成や内容を捉えたりするための視点や、教科書教材の構成・表現の工夫を明確にすることで、児童は叙述を基に、課題解決のために必要なことを正しく読むことができた。</p> <p>○第二次の習得したことを活用する場面での交流と、第三次における相互評価の場面での交流の目的を明確に分けた。そうすることで、児童の考えを広げたり、深めたりすることができた。</p>	<p>○単元で身に付けさせたい力を明確にし、教科書教材のどのような特徴を読み取らせるとよいのか、どの段落を重点的に扱うのかといった教材研究を、今後も続けて行っていく必要がある。</p> <p>○交流の方法の一つとして、付箋や短冊といった具体物を操作しながら考えを分類・整理させることが有効だと分かったが、学習のねらいに即した他の方法をさらに開発していくことが必要である。</p>

平成25年度 教育研究員名簿
小学校・国語

低学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
国分寺市	第五小学校	主幹教諭	☆榊原 奈美
品川区	京陽小学校	主任教諭	高橋 由起子
江戸川区	下鎌田東小学校	主任教諭	鈴木 衣里
青梅市	藤橋小学校	主任教諭	清家 未寿貴

中学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
三鷹市	大沢台小学校	主任教諭	☆白石 華子
千代田区	和泉小学校	主任教諭	村田 久美子
葛飾区	新小岩学園松上小学校	主幹教諭	白木 一宏
江戸川区	南篠崎小学校	主任教諭	○安河 努
青梅市	新町小学校	主任教諭	宮崎 弘美
調布市	第二小学校	主任教諭	渡部 武義

高学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
大田区	蒲田小学校	主幹教諭	◎松尾 敦
杉並区	四宮小学校	主任教諭	☆菅野 恭子
北区	八幡小学校	主任教諭	青木 千恵
練馬区	南田中小学校	主任教諭	三宅 梨加
武蔵村山市	第三小学校	主任教諭	丸山 智史

◎全体世話人 ○全体副世話人 ☆分科会世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

指導主事 富永 大優

平成25年度
教育研究員研究報告書

小学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成25年度第193号〕
平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 昭和商事株式会社